

Syllabus

Saga Dental Hygienist School

2024年度 授業計画【シラバス】



一般社団法人 佐賀県歯科医師会立

佐賀歯科衛生専門学校

授業科目一覧

学 科 目	履 修 時 期	総単位数	総時間数	担 当 講 師	頁
生 物	第 1 学年前期	2	30	宮 脇 博 巳	1・2
化 学	第 1 学年後期	2	30	服 部 清 彦	3
心 理 学	第 2 学年前期	2	30	池 田 知 子	4
社 会 学	第 1 学年前期	2	30	木 山 淳 一	5
歯 科 英 語	第 1 学年後期	2	30	Andrew Chapman	6
英 会 話	第 2 学年前期	2	30	Andrew Chapman	7
解 剖 学	第 1 学年前期	2	30	重 松 正 仁	8
組 織 発 生 学	第 1 学年前期	1	20	中 尾 彰 宏	9
生 理 学	第 1 学年前期	1	20	福 泉 忠 興	10
生 化 学	第 1 学年後期	1	20	中 尾 彰 宏	11
口 腔 解 剖 学	第 1 学年前期	2	30	鶴 田 和 裕	12
歯 牙 解 剖 学	第 1 学年前期	1	20	重 松 正 仁	13
歯 型 彫 刻	第 2 学年前期	1	40	服 部 清 彦	14
口 腔 生 理 学	第 1 学年前期	1	20	福 泉 忠 興	15
病 理 学	第 1 学年前期	1	20	岩 本 脩 平	16
口 腔 病 理 学	第 1 学年前期	1	20	秋 山 兼 範	17
薬 理 学	第 1 学年前期	2	30	福 泉 忠 興	18
微 生 物 学	第 1 学年前期	2	30	時 貞 壮 志	19
口 腔 衛 生 学	第 1 学年前期	2	40	中 尾 彰 宏	20
公 衆 歯 科 衛 生	第 2 学年前期	1	20	新 原 直 美	21
歯 科 衛 生 統 計	第 2 学年前期	1	20	酒 井 貴 芳	22
衛 生 ・ 公 衆 衛 生	第 1 学年後期	2	30	岡 大 和	23
衛生行政・社会福祉(衛行)	第 2 学年前期	2	20	富 田 知 孝	24
衛生行政・社会福祉(社福)	第 2 学年後期		10	田 代 勝 良	25
歯 科 衛 生 士 概 論	第 1 学年前期	1	16	片 淵 恵	26
医 療 倫 理	第 1 学年後期	1	16	平 山 輝 久	27
歯 科 臨 床 概 論	第 1 学年前期	1	30	松 本 一	28
保 存 修 復 学	第 1 学年後期	1	30	坂 井 拓 弥	29
歯 内 療 法 学	第 1 学年後期	1	30	鶴 田 満 大	30
歯 周 治 療 学	第 1 学年後期	1	30	重 松 正 仁	31
歯 科 補 綴 学	第 1 学年後期	1	30	平 山 輝 久	32
矯 正 歯 科 学	第 2 学年前期	1	30	近 藤 成 智	33
口 腔 外 科 学	第 1 学年後期	1	30	岩 本 脩 平	34

学 科 目	履 修 時 期	総単位数	総時間数	担 当 講 師	頁
小 児 歯 科 学	第2学年前期	1	30	一 瀬 暢 宏	35
障 害 者 歯 科 疾 患 論	第2学年前期	1	20	西 村 賢 二	36
				久 保 田 智 彦	37
高 齢 者 歯 科 疾 患 論	第2学年前期	1	20	藤 田 寛	38
				緒 方 理 人	39
歯 科 口 腔 放 射 線 論	第1学年後期	1	24	福 島 真 司	40
歯 科 予 防 処 置	第1, 2, 3学年	8	280	古 賀 さ と り 下 川 と 寧 々 木 崎 寿 美 江 岸 川 瑞 紀	41
歯 科 保 健 指 導	第1, 2, 3学年	6	210	山 崎 京 子	42
栄 養 指 導	第2学年前期	2	40	井 手 万 里 子 糟 村 純 子 石 美 鈴	43
歯 科 診 療 補 助	第1, 2, 3学年	9	315	佐 賀 大 学 医 学 部 付 属 病 院 (検 査 部)	44
臨 床 検 査	第1学年後期	1	20	中 村 智 彰	45
救 急 蘇 生 法	第2学年前期	1	16	塚 本 浩 樹	46
社 会 保 険	第2学年後期	1	18	今 村 恭 子	47
医 療 保 険 事 務	第3学年前期	2	30	村 石 美 鈴	48
歯 科 材 料 学	第1学年後期	2	30	浦 弘 得	49
看 護 概 論	第2学年前期	1	20	坂 本 美 保 木 村 敬 次 リ 浅 川 龍 憲 古 谷 幸 子 糟 谷 純 子	50
総 合 講 義	第3学年後期	2	30	倉 成 登 志 子	51
必 修 ク ラ ブ (茶 道)	第1学年前期・後期	2	30	太 田 直 彦	52
必 修 ク ラ ブ (書 道)	第1学年前期・後期	2	30	米 倉 弥 生	53
必 修 ク ラ ブ (華 道)	第1学年前期・後期	2	30	松 尾 尚 子	54
必 修 ク ラ ブ (ピ ア ノ)	第1学年前期・後期	2	30	久 米 詔 子	55
必 修 ク ラ ブ (ハ ン ド ベ ル)	第1学年前期・後期	2	30	松 尾 京 子	56
話 法	第2学年前期	1	20	立 花 美 絵	57
接 遇	第1学年後期	2	30	古 川 幸 介	58
隣 接 医 学	第2学年前期	1	20	坂 本 美 保	59
情 報 処 理 概 論 ・ 実 習	第2学年後期	1	20	山 口 直 美	60
介 護 技 術 概 論	第2学年後期	2	30	山 口 直 美	61
介 護 技 術 演 習	第2学年後期	1	20	服 部 信 一	62
摂 食 嚥 下 ・ 口 腔 機 能 訓 練 法	第2学年後期	1	20	清 水 耕 史	63
国 語 表 現 法 及 び 読 解	第2学年後期	1	20	村 上 美 由 紀	64
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学	第2学年後期	1	20	太 田 直 彦	65
ペ ン 字	第2学年後期	1	20		66

科目別計画

授業科目名 生 物

担当講師	宮脇 博巳		
実務経験	佐賀大学教育学部（35年）「生物学概論」等担当、国立岩国病院附属看護学校（1年）「生物学」担当、福岡女学院大学大学院（1年）「理科教育研究」担当		
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (30)時間
授業の 目標・概要	人体は10兆近い細胞の集合体であるが、その十倍の微生物が口内、腸内、皮膚に生息して人体の健康と関連していることが判明してきた。つまり、口内環境は健康と長寿にも関係している。ゲノム生物学から生物多様性の生物学など最新の生物学情報を交えながら、正しい生命観を持ち、専門教育、国家試験の基礎を学ぶことを目標とする。		
授業計画・ 授業内容	<p>第1回：サイエンスとは、自然の中の規則を見出すこと。では、生物学は他のサイエンス領域と何処がことなるのか（教科書・参考図書を通じ予習復習をすること） ナノハナの花の構造を学ぶので、ハサミとセロハンテープ、直径6mmのストローが必要</p> <p>第2回：生物学史と生命の定義の変遷（テキストを読んで予習復習をすること）</p> <p>第3回：現在、生物とはどの様に定義されるか（教科書・参考図書を通じ予習復習をすること）</p> <p>第4回：細胞説（教科書・参考図書を通じ予習復習をすること）</p> <p>第5回：細胞説と細胞共生進化説（テキストや参考図書を使った予習復習をすること）</p> <p>第6回：化学や物理の実験と異なり、生命体内の化学反応は、なにが特異なのか（教科書・参考図書で予習復習をすること）</p> <p>第7回：南極、中国、アメリカ、ヨーロッパなどの動植物の映像を通じ生物多様性を学習する。（一般の読書を通じ予習復習をすること）</p> <p>第8回：遺伝子多型の例として、ヒトのアルコールパッチテストを行う（教科書・参考図書を通じ予習復習をすること）</p> <p>第9回：ウイルスなど身近な病原菌の進化とヒトの暮らしの関係学習（参考図書などで予習復習をすること）</p> <p>第10回：ダーウィンの自然選択を学ぶ（配布プリントを元に予習復習をすること）</p> <p>第11回：生物界の性の意義。雄間競争が原則（配布プリントを元に予習復習をすること）</p> <p>第12回：なぜ、戦いを好まない雄が生存し得るゲームの理論（配布プリントを元に予習復習をすること）</p> <p>第13回：生物は、うまく他種を利用し、助け合って生きている（配布プリントを元に予習復習をすること）</p> <p>第14回：遺伝子とメンデルの遺伝の法則を学ぶ（配布プリントを元に予習復習をすること）</p> <p>第15回：個性の源はDNAの塩基配列の違いによる（配布プリントを元に予習復習をすること）</p>		

教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編） 歯科衛生学シリーズ 生物学 医歯薬出版
参考文献	理科好きな子に育つふしぎのお話 365。2015. 自然史学会連合（監修）.成文堂新光社
授業方法	単に座学に終わるのでなく紙細工によるDNAモデル作成など手を動かし学生が参加する講義を目指しています。
評価方法	平素の学修状況において問題解決につながる授業参加型を評価する（10点）、プロフェッショナルとしての課題を発見し、解決する能力を学修報告で評価する（10点）、生物模型作成を含むレポート（10点）とプロフェッショナルとしての課題を発見し、解決する能力を定期試験で評価する（70点）。
履修上の注意 アドバイス	紙細工によるDNAモデル作成など手を動かす学生が参加型講義を目指しています。そのため、ハサミ、木工用ボンド、カッター、色鉛筆が必要

授業科目名 化 学

担当講師	服部 清彦		
実務経験	○	歯科医師として歯科診療に従事	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	<p>歯科では、生体の仕組みと変化、診断・治療の理論と実際、機材・器具・薬剤など、幅広い知識が求められます。それらの理解に必要な化学を、高校理科の基礎に立って、幅広く学習します。</p>		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質とは（物質の分類と構造，原子，元素，物質量，化学結合） 2. 気体について（気体のルール，空気，医療と生活への応用） 3. 水に溶ける（濃度，希薄水溶液，コロイド，酸とアルカリ） 4. 酸化と還元（酸化還元反応，金属のイオン化傾向） 5. 化学反応（反応速度，化学平衡） 6. 有機化合物（成り立ち，名称，異性体，有機化学反応，代表的な化合物とその性質，高分子化合物） 7. ヒトをつくっているもの（水，無機質，糖質，アミノ酸とタンパク質，脂質，核酸とその関連物質） 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 化学 医歯薬出版		
参考文献	必要に応じてパソコン画面で紹介します。		
授業方法	講義。教科書を中心に説明します。		
評価方法	中間試験，学期試験，平素の授業態度を総合して評価します。		
履修上の 注意 アドバイス	<p>歯科衛生士として必要な基礎科学を中心に授業を進めますので、専門用語またその意味をよく理解してください。</p>		

授業科目名 心理学

担当講師	池田 知子		
実務経験	○	臨床心理士、公認心理師の資格を持ち、小中学校、高等学校でカウンセリングを行っている。	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。また、医療業務に役立てられるように、自己および患者の心理を理解することを目標とする。		
授業計画・ 授業内容	①心理学とは ②知覚 ③学習理論 ④動機付け ⑤感情とストレス ⑥パーソナリティ理論 ⑦知能 ⑧思考 ⑨発達理論：乳児期～児童期 ⑩発達理論：青年期～高齢期 ⑪対人認知 ⑫社会心理学理論 ⑬心理療法 ⑭カウンセリング ⑮コミュニケーション		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編） 歯科衛生学シリーズ 心理学 医歯薬出版		
参考文献	医療の行動科学 I 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー 山田富美雄編 (北大路書房)		
授業方法	パワーポイントを用いて講義を行う。		
評価方法	受講態度、レポート、学期試験などから総合的に評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを取る。 ・毎回小テストを行う。 ・自分の体験と照らし合わせながら理解していく。 		

授業科目名 社会学

担当講師	木山 淳一		
実務経験			
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (30)時間
授業の 目標・概要	社会学の基本を理解し、社会の様々な事象や社会問題について考えられるようにする。さらに医療従事者として権利擁護の視点の向上を図る。		
授業計画・ 授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○社会学とは ○日本の地域社会の現状と課題について考える ○日本の家族について考える ○身近な差別や偏見について考える 		
教科書	なし（授業ごとに資料を配布する）		
参考文献			
授業方法	講義を中心として、身近にある問題や事件などから多様な考え方を学ぶ。		
評価方法	授業への参加態度、小テスト、期末テストによって評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	授業の内容が単なる知識で終わるのではなく、自分のこととして捉えることができるように日常生活における具体例を考える。		

授業科目名 歯科英語

担当講師	Andrew Chapman		
実務経験	○	国立大学法人佐賀大学非常勤講師 (株) 佐賀新聞文化センター講師 アプライド英会話教室室長	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で患者さんとコミュニケーションをする上で必要不可欠な歯科医療用語とフレーズを身に付ける。 ・発音、イントネーションそして基本的英会話能力の上達を目指す。 		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士として必要な歯科医療専門用語・表現 2. 英語の発音とイントネーション 3. 日常英会話 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会 (編) 歯科衛生学シリーズ 歯科英語 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	テキストに沿ってロールプレイや会話の練習をする。基本的な会話の練習を通して英語と英語の文化に慣れる。しばしばテストやクイズで学習の補強をする。		
評価方法	出席状況、学期試験、小テスト(簡単なインタビューテストを含む)		
履修上の 注意 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・話したり、質問したりすることを怖がらない。 ・みんな失敗する。最も大切なことはトライすること。単語を覚えるのは一晩に数分しかかからない。 So “just do it !”。 		

授業科目名 英 会 話

担当講師	Andrew Chapman		
実務経験	○	国立大学法人佐賀大学非常勤講師 (株) 佐賀新聞文化センター講師 アプライド英会話教室室長	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で患者さんとコミュニケーションをする上で必要不可欠な歯科医療用語とフレーズを身に付ける。 ・発音、イントネーションそして基本的英会話能力の上達を目指す。 		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士として必要な歯科医療専門用語・表現 2. 英語の発音とイントネーション 3. 日常英会話 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会 (編) 最新歯科衛生士教本 歯科英語 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	テキストに沿ってロールプレイや会話の練習をする。基本的な会話の練習を通して英語と英語の文化に慣れる。しばしばテストやクイズで学習の補強をする。		
評価方法	出席状況、学期試験、小テスト(簡単なインタビューテストを含む)		
履修上の 注意 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・話したり、質問したりすることを怖がらない。 ・みんな失敗する。最も大切なことはトライすること。単語を覚えるのは一晩に数分しかかからない。 So “just do it !”。 		

授業科目名 解剖学

担当講師	重松 正仁		
実務経験	○	佐賀大学医学部解剖学教室解剖学実習補助 チュラロンコン大学フレッシュカダバー解剖実習インストラクター	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	解剖学は人体の形態・構造とその成り立ちを追求する学問である。 本授業では全身解剖の基礎知識を身につけることを目標とする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学総論 2. 骨格系 3. 筋と運動 4. 消化・吸収 5. 循環 6. 神経系 7. 呼吸 8. 感覚 9. 排泄 10. 内分泌 11. 生殖 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版 解剖トレーニングノート 医学教育出版社		
参考文献	イラスト解剖学 松村譲児(著) 中外医学社 好きになる解剖学 竹内修二(著) 講談社サイエンティフィック		
授業方法	教科書を中心に講義、および補助プリント配布		
評価方法	授業中の態度および学期試験で総合的に評価する		
履修上の 注意 アドバイス	解剖学は暗記の学問として苦手になっている学生が非常に多いですが、やみくもに丸暗記するのではなく、理解して知識を増やして楽しんで学習して下さい。また口腔環境が全身の健康といかに密接に関連しているかを理解して下さい。		

授業科目名 組織発生学

担当講師	中尾 彰宏		
実務経験	○	歯科医院に勤務	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	まず生体を構成する『細胞』→『組織』→『器官』の単位を知り、それらが集まってできた様々な組織の発生とその特徴を理解する。		
授業計画・ 授業内容	1. 細胞と組織 I.細胞 II.組織 2. 発生 I.精子と卵子の発生 II.染色体 III.受精と着床 IV.胚葉の形成 V.胎児の成長と発育 VI.骨の発育 VII.顔面と口腔の発育 3. 口腔組織		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義。プリント、パワーポイント等		
評価方法	学期試験・小テスト・出席状態		
履修上の 注意 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ予習、復習を行う。 ・初めて聞く専門用語がたくさん出てくるので整理して覚えていく。 ・医療の基礎となるところなので、しっかり理解してもらいたい。 		

授業科目名 生理学

担当講師	福泉 忠興		
実務経験	○	歯科医院にて歯科臨床に従事している。	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	生理学は、人体の機能とその仕組みをあきらかにする学問である。 口腔の機能を学ぶにあたり、まず全身の機能を理解することをこの講義の目的とする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 細胞と組織 2 筋と運動 3 消化・吸収 4 循環 5 神経系 6 呼吸 7 感覚 8 体温・排泄 9 内分泌 10 生殖 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	教科書、プリントを使い講義する。		
評価方法	筆記試験（100%）		
履修上の 注意 アドバイス	各項目ごとに講義の後、小テストを行うので講義中は集中して受講すること。 講義内容が難しいため、復習は必須である。		

授業科目名 生 化 学

担当講師	中尾 彰宏		
実務経験	○	歯科医院に勤務	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	生化学は、生命現象を分子レベルで示す学問である。生体の基本的なエネルギー代謝系と口腔組織の役割などについて分子レベルで理解することを目標とする。		
授業計画・ 授業内容	<p>I. 生命活動の概要</p> <p>1章 生体の構成要素</p> <p>2章 生体における化学反応</p> <p>3章 糖質の代謝</p> <p>4章 タンパク質の代謝</p> <p>II. 口腔の生化学</p> <p>1章 結合組織</p> <p>2章 歯の構成成分</p> <p>3章 石灰化</p> <p>4章 唾 液</p> <p>5章 歯の堆積物</p> <p>6章 う蝕と歯周疾患の免疫</p>		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義。プリント、パワーポイント等		
評価方法	学期試験・小テスト・出席状態		
履修上の 注意 アドバイス	難しい教科のため、一度の講義だけでは理解しにくいと思われる。積極的に予習、復習や質問をしてもらえばと思います。		

授業科目名 口腔解剖学

担当講師	鶴田 和裕		
実務経験	○	自院における歯科診療	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	<p>口腔解剖は歯科医学に必要な口腔と、これに密接な関連をもつ口腔周囲の各器官の形態や構造を肉眼的に攻究していく学問であり、系統解剖学の一分野である。頭頸部の形態や構造を、図、写真、スライド、模型を通して口腔の形態的特徴を立体的に理解することを目標とする。</p>		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔の概要 2. 口腔内外の表面構造 3. 口腔の内部構造 4. 頭蓋骨 5. 頭頸部の筋 6. 頭頸部の脈管系 7. 頭頸部の神経 8. 骨模型による実習 		
教科書	<p>全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版</p>		
参考文献			
授業方法	<p>パソコンによるスライド方式 骨模型を使用しての実習・試問</p>		
評価方法	<p>学期試験を実施</p>		
履修上の 注意 アドバイス	<p>解剖学は暗記による学習が大部分をしめる。また聞きなれない単語、読みづらい漢字が多数あるため、予習よりも復習を重点的におこなうことが必要となる。</p>		

授業科目名 歯牙解剖学

担当講師	重松 正仁		
実務経験	○	佐賀大学医学部解剖学教室解剖学実習補助 チュラロンコン大学フレッシュカダバー解剖実習インストラクター	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20) 時間
授業の 目標・概要	人の歯の形態と咬合関係を学ぶ基礎を学習し、解剖学の一分野としての歯の機能を理解すること。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の概論 2. 永久歯について 3. 乳歯について 4. 歯の配列と咬合 5. 異常歯 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版 解剖トレーニングノート 医学教育出版社		
参考文献	歯科に役立つ人類学 金澤栄作 他 わかば出版等		
授業方法	教科書および補助プリント、歯牙解剖実習模型		
評価方法	授業態度および学期試験、レポート		
履修上の 注意 アドバイス	歯の形態については今まで全く生活上気にもとめていなかったと思います。せっかくのこの機会に基本を中心にじっくり歯の解剖学を勉強して下さい。きっと将来仕事の上ではもちろん通常の生活の上でも役に立ちます。		

授業科目名 歯型彫刻

担当講師	服部 清彦		
実務経験	○	歯科医師として診療に携わる	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (40)時間
授業の 目標・概要	歯のもつ三次元的な特徴を、二次元の平面上に展開図あるいは外形を描き、各部の名称とそれらの特徴を再確認する。彫刻では歯の立体像を製作し、歯のもつ形態と再現する。講義を通じて培った知識と技術を臨床科目に応用するための基礎的な実地訓練である。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯型彫刻の目的及び彫刻方法について 2. 彫刻実習 講義後実習(右側上下1～7の範囲で行う) 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義後彫刻実習		
評価方法	学期試験。彫刻物は毎回提出し定期試験の採点時に参考とする。		
履修上の 注意 アドバイス	分からないときは必ず質問して理解し実習時間に一度は彫刻物を見せて形態のチェックを受けること。		

授業科目名 口腔生理学

担当講師	福泉 忠興		
実務経験	○	歯科医院にて歯科臨床に従事している。	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	口腔生理学は、口腔を構成する諸器官の生命現象、機能を研究し、それらに存在する法則性を明らかにする生理学の一分野である。口腔の各器官の機能と各器官の相互関係から、口腔機能の特徴を理解することを目的とする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 口腔生理学をまなぶにあたっての基礎事項 2 歯と口腔の感覚 3 味覚と嗅覚 4 咬合と咀嚼・吸啜（下顎位、下顎運動） 5 咬合と咀嚼・吸啜（顎反射） 6 咬合と咀嚼・吸啜（摂食行動、咀嚼能力、吸啜） 7 嚥下と嘔吐（1） 8 嚥下と嘔吐（2） 9 唾液 10 発声 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	教科書、プリントを使い講義する。		
評価方法	筆記試験（100%）		
履修上の 注意 アドバイス	各項目ごとに講義の後、小テストを行うので講義中は集中して受講すること。 講義内容が難しいため、復習は必須である。		

授業科目名 病 理 学

担当講師	岩本 脩平		
実務経験	○	大学院での病理診断	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	病理学とは生体に病変が生じる場合や疾患に侵される場合のメカニズムを理解する学問である。様々な異常や疾患発生のメカニズムを理解することを目標とする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学序論 2. 病因論 3. 遺伝性疾患・奇形 4. 代謝障害 5. 増殖と修復 6. 循環障害 7. 炎症と免疫 8. 腫瘍 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	パワーポイントによる講義		
評価方法	学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	<p>基本的に教科書にそって授業を行います。</p> <p>必要に応じて参考文献にコピー等おわたしするかと思います。</p> <p>各自の教科書、ノートによくメモをとって予習、復習をお願いします。</p>		

授業科目名 口腔病理学

担当講師	秋山 兼範		
実務経験	○	歯科医師として大学病院に勤務し、博士号取得。その後開業	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	口腔領域の組織に発生する病変の原因、経過、転帰を理解する。また、それらの知識は口腔病変の診断、治療ならびに予防に関して必要不可欠である。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔病理とは 2. 歯の発育異常 3. 歯の機械的および化学的損傷 4. 歯の付着物および沈着物 5. 象牙質とセメント質の増生および歯髄と歯根膜の石灰化 6. う蝕 7. 歯髄の病変 8. 口腔粘膜創と抜歯創の治癒 9. 歯周組織の病変 10. 口腔領域の病変 11. エプーリス 12. 口腔領域の奇形 13. 顎骨の病変 14. 口腔領域の嚢胞・腫瘍・加齢変化 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	パワーポイント、プリントによる講義 (小テストも行う場合もあり)		
評価方法	学期試験、小テスト		
履修上の 注意 アドバイス	しっかり予習、復習を行って下さい。		

授業科目名 薬理学

担当講師	福泉 忠興		
実務経験	○	歯科医院にて歯科臨床に従事している。	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	<p>薬理学は、薬物を生体に与えた場合に生体が現す反応を研究する科学であり、また疾病の治療、予防、診断における合理的な薬物療法を追求する学問である。薬物は疾病の原因除去や症状緩和を目的に使用されるが、副作用を惹起しない薬物はない。即ち、薬物の有用な作用だけでなく、副作用も認識したうえで、薬物を選択し投与しなければならない。そのためにも、薬物の作用や身体における薬物の働きを知ることは重要なことである。この講義では、薬理学の基礎的な概念を総論を通じて学習し、各論において個々の薬物の薬理作用を理解することを目的とする</p>		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 薬物の作用 2 薬物動態、薬物の適用方法の種類と特徴 3 薬物の作用に影響を与える要因、薬物の副作用・有害作用 4 医薬品を適用する際の注意、薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品 5 ビタミンとホルモン 6 末梢神経系に作用する薬物 7 中枢神経系に作用する薬物 8 循環器系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物 9 呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物 10 血液に作用する薬物、免疫と薬 11 悪性腫瘍と薬、代謝性疾患治療薬 12 炎症と薬、痛みと薬、局所麻酔薬 13 抗感染症薬、消毒に使用する薬 14 齲蝕予防薬、歯内療法薬 15 歯周疾患治療薬、顎・口腔粘膜と薬 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 医歯薬出版		
参考文献	知っておきたい歯科衛生士のためのくすりの知識（デンタルダイヤモンド社）		
授業方法	教科書、プリントを使い講義する。		
評価方法	筆記試験（100%）		
履修上の 注意 アドバイス	講義内容が難しいため、復習は必須である。		

授業科目名 微生物学

担当講師	時貞 壮志		
実務経験	○	歯科医師、一般歯科医院および大学病院歯科口腔外科学講座勤務	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	微生物学の基本的事項や、歯科衛生士として感染症に対して理解をしておくことは必要であり、それらを学ぶことを目標とする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の発達と歴史 2. 微生物の一般的性状 3. 微生物の培養法と観察方法 4. 感染と発症 5. 免疫 6. 病原微生物各論 7. 化学療法 8. 滅菌と消毒 9. 口腔内常在微生物 10. う蝕症 11. 歯周病 12. 口腔内症状がみられる感染症と歯科診療上留意すべき口腔感染症 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	パワーポイント、プリントによる講義 (小テスト含む)		
評価方法	定期試験、小テスト。出席状況や授業態度も含みます。		
履修上の 注意 アドバイス	予習、復習を十分に行ってください。		

授業科目名 口腔衛生学

担当講師	中尾 彰宏		
実務経験	○	歯科医院に勤務	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (40) 時間
授業の 目標・概要	地域住民の健康福祉を獲得し、地域住民の QOL(生活の質)が向上するために、口腔衛生学を歯科衛生士の学ぶべき中心的課題として位置づけ、口腔保健の重要性を認識できる歯科衛生士になることを目指す。さらに、広く地域社会を対象とした「みんなの健康生活の向上」を可能にする。Social mind(社会の人々を想う心)をもった歯科衛生士の養成を目標とする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔衛生学の意義 2. 歯・口腔の健康 3. 口腔の環境 4. 口腔清掃 5. う蝕の予防 6. 歯周病の予防 7. 不正咬合の予防 その他の疾病・異常の予防		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 口腔衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義。聴講形式を中心に、必要に応じてパワーポイントを使用した画像、映像情報を用いて講義を行なう。		
評価方法	筆記試験の学期試験で評価する。出席状況および受講態度についても客観的評価方法を検討し、導入を図る。		
履修上の 注意 アドバイス	口腔衛生学および公衆衛生学の「衛生」は歯科衛生士の「衛生」に通じており、これらの学科が歯科衛生士の最も中心的課題であることを認識する。臨床における来院者のニーズ、デマンドへの適切な対応は当然のことであるが、さらに、関連学科である公衆衛生学の素養を基に、広く地域社会を対象とした地域歯科保健活動のできる歯科衛生士を目指して研鑽を重ね、地域社会から尊敬され、必要とされる歯科衛生士になって欲しいと願っている。		

授業科目名 公衆歯科衛生

担当講師	新原 直美		
実務経験	○	母子歯科保健事業（乳幼児健診、妊婦健診等） 学校歯科保健事業（幼稚園・保育園・学校での歯科保健教育・フッ化物洗口の指導等） 成人・老人歯科保健事業（地域住民への歯科保健教育・健康相談・歯周病健診等）	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	卒後、臨床では関わりが少ない分野ではあるが、全くのゼロとは言えない。関わりがあった時に、戸惑う事がないよう、最低限の知識は身に付けて欲しい。特に、国試の出題率や卒後の関わりの可能性が高い母子保健には要注意。		
授業計画・ 授業内容	1. 公衆歯科衛生とは何か？ 2. 地域歯科保健活動について 3. 母子歯科保健について 4. 学校歯科保健について 5. 産業歯科保健について 6. 成人歯科保健について 7. 老人歯科保健について		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 医歯薬出版		
参考文献	地域活動歯科衛生士のための活動マニュアル、ヘルシースマイル佐賀21 など		
授業方法	講義、プリント等の書き込み作成、復習のための小テスト など		
評価方法	学期試験 ※ 場合によっては、授業中の小テストなど加味する事あり		
履修上の 注意 アドバイス	授業は、参考資料プリントなどの配付物が多いため、無くさない様にファイリングしておく事。また、復習のための小テストを取り入れながら実施していくので、確実に覚えていって下さい。卒後の関わりの少ない分野ですが、最低限の知識は身に付けて欲しいと思います。		

授業科目名 歯科衛生統計

担当講師	酒井 貴芳		
実務経験	○	歯科医師として歯科医院で診療を行っている	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	<p>統計学の基本的な重要事項を理解する。 口腔疾患の疫学における統計的手法を理解する。 口腔疾患の疫学に関して科学的思考法や評価法の基本を理解する。</p>		
授業計画・ 授業内容	<p>1. 標本調査 1-1. 母集団と標本 1-2. 標本抽出法 1-3. 度数分布 1-4. 基本統計量 1-5. 差の検定 1-6. 相関係数 2. 疫学の基礎 2-1. 疫学 2-2. 歯科疾患の疫学 2-3. 歯科疾患の数量化</p>		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	教科書に沿って基本事項を解説。パワーポイントを用いて図表や画像を示し具体的に説明。		
評価方法	学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	<p>「統計学は最強の学問である」と言われてきているように、近い将来読み書きするのと同じレベルで統計学的な思考方法が重要になって行きます。完璧な理解を追及するのではなく、基本に忠実に統計学の理解を深めるようにしましょう。さらには、統計学的手法が口腔疾患の疫学にどのように利用されているかを理解することがポイントです。</p>		

授業科目名 衛生・公衆衛生

担当講師	岡 大和		
実務経験	○	歯科医師として歯科医院で診療業務を行っている	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	<p>健康と予防医学の概念及び人間をとりまく自然的・社会的環境因子と健康の関係について学習する。</p> <p>集団を対象とした疾病予防と健康増進についての地域保健活動の在り方と、多職種との歯科衛生士のかかわりについて理解を深める。</p>		
授業計画・ 授業内容	<p>1 総論 健康の概念</p> <p>2 総論 予防医学の概念</p> <p>3 疫学</p> <p>4 人口</p> <p>5・6・7 健康と環境</p> <p>8・9 感染症</p> <p>10 食品と健康</p> <p>11 精神保健</p> <p>12・13 災害時の歯科保健</p> <p>14 国際保健</p> <p>15 まとめ</p>		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義。教科書を中心に解説し、必要な資料を配布して板書、スライドなどを使用する。		
評価方法	学期末試験、出席状況、受講態度で評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	授業内容を理解できるように授業前に予習を心がけ、疑問点を整理しておく。授業後にも復習を行い、解決できなかった疑問点はそのままにせず、質問して解決することを期待する。		

授業科目名 衛生行政・社会福祉(衛生行政)

担当講師	富田 知孝		
実務経験	○	歯科医師	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (20)時間
授業の 目標・概要	歯科衛生士業務の成り立ち、それを裏付ける資格と法律。また、衛生行政に係わる様々な関連法律があることを認識しよう。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士資格の成り立ちと法律 2. 衛生行政の必要性 3. 衛生行政に関連する法律について 4. 歯科保健医療に関連する法律の理解 5. 医療の動向 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義とディスカッション		
評価方法	学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	衛生行政にかかわっていく事を自覚し、その重要性がますます高まっていることを認識してほしい。		

授業科目名 衛生行政・社会福祉(社会福祉)

担当講師	田代 勝良		
実務経験	○	社会福祉士として障害者施設にて勤務 西九州大学健康福祉学部社会福祉学科 准教授 社会福祉原論を講義 佐賀県立総合看護学院 看護学科2年非常勤講師 社会福祉を講義	
履修時期	第2学年後期	単位数 (総時間数)	2単位 (10) 時間
授業の 目標・概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基本的動向について理解を深める。 2. 社会福祉の分野別制度とサービス内容を理解する。 3. 生活保護制度の基本的理解を深める。 		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の動向 2. 社会福祉の分野と施策 <ol style="list-style-type: none"> (1)老人福祉の制度と施策 (2)障害者福祉の制度と施策 (3)児童福祉の制度と施策 (4)一人親福祉の制度と施策 3. 生活保護制度 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版		
参考文献	系統看護講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度 3 医学書院		
授業方法	講義		
評価方法	学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	医療と福祉の連携の必要性を重要内容として理解させることに重点を置く。		

授業科目名 歯科衛生士概論

担当講師	片渕 恵		
実務経験	○	歯科衛生士として歯科医院勤務	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (16)時間
授業の 目標・概要	<p>歯科衛生士としての社会的役割、理念、法的業務について、総合的に学ぶ。 又、倫理的な視点と科学的な根拠をもって仕事を行う事を学び、歯科衛生士業務に携わる心構えを習得する。</p>		
授業計画・ 授業内容	<p>1章 歯科衛生学とは 2章 歯科衛生の歴史 3章 歯科衛生活動のための理論 4章 歯科衛生過程 5章 歯科衛生士法と歯科衛生業務 6章 歯科衛生士と医療倫理 7章 歯科衛生士の活動と組織 8章 海外における歯科衛生士</p>		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義、グループワーク、小テスト等を行う。		
評価方法	学期試験、受講態度の総合評価とする。		
履修上の 注意 アドバイス	<p>学問的知識だけでなく、自分の目標とする歯科衛生士像を見つけてほしいと思います。 又、復習のための小テストを取り入れながら実施します。</p>		

授業科目名 医療倫理

担当講師	平山 輝久		
実務経験	○	歯科医師として歯科医院を開業 長崎大学病院に所属	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (16)時間
授業の 目標・概要	誇りと自信をもって職務に専念するために、歯科医療に関連する権利と義務をよく理解し、社会的使命を自覚する。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理とは、倫理学とは 2. 伝統的な医の倫理 3. 医療倫理に関する規範(各種宣言) とバイオエシックス 4. インフォームドコンセント 5. 医療現場における人の行動 6. 医療従事者としての歯科衛生士に必要とされる事項 7. チームアプローチ 8. 患者とのコミュニケーション 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学 医歯薬出版		
参考文献	随時紹介する		
授業方法	教科書にそって講義。理解を深める為、必要に応じてレポート課題を出す。医療現場に於けるコミュニケーション演習。		
評価方法	学期試験、レポート、演習に取り組む態度で評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	リラックスして受講してもらえと思う。 しかし、医療倫理は歯科衛生士の役割と行動の指針となるものであるから、真剣に学んでもらいたい。		

授業科目名 歯科臨床概論

担当講師	松本 一		
実務経験	○	歯科医師として診療所にて業務を行っている。	
履修時期	第1学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	将来の仕事の場である歯科臨床の現場で何が行われているのか？を歯科衛生士教育の初期の段階で歯科臨床のシステムや診療の流れを通じて解りやすく解説するとともに、歯科臨床各科の講義へのスムーズな導入を目標とする		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医療：歯科の臨床、インフォームドコンセント、歯科医療の特異性 2. 歯科患者 3. 歯科疾患の概要：スライドによる症例供覧 4. 歯科診療所：スライドによる実在の歯科診療所の設備、特色の供覧 5. 歯科診療の流れの概要：医療面接のテクニックや器材、救急処置など 6. 歯科保存治療の概要 7. 歯周治療の概要 8. 歯科補綴治療の概要 9. 小児歯科治療の概要 10. 矯正歯科治療の概要 11. 口腔外科治療の概要：6～11スライドでの症例供 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版 医歯薬出版		
参考文献	荒井桂 他（著）「歯科臨床概論と診療補助」クインテッセンス出版		
授業方法	各回のプリント作成、書き込み、スライドによる歯科臨床の器具、器材、症例供覧など		
評価方法	学期試験に授業中の小テスト、授業態度を加味する		
履修上の 注意 アドバイス	歯科臨床概論は歯科医師が日常臨床の場で何を考え、行っているかという臨床への入門案内的な役割があります。臨床で使われる用語や器材、診療の流れを理解することではじめて歯科医師と対等な立場で仕事ができるようになるため、授業はまじめに取り組み、解らないことは積極的に質問してください		

授業科目名 保存修復学

担当講師	坂井 拓弥		
実務経験	○	歯科医師として日々臨床を行っている。	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	保存修復学とは、う蝕やその他の理由により生じた歯冠部の形態欠損や、機能回復するための処置、材料を学ぶための学問であり、歯科衛生士としての処置の意図や基本を理解することは日常臨床をスムーズにするためには必要不可欠である。		
授業計画・ 授業内容	<p>総論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯の保存療法とは ・口腔診査 ・保存修復学の意味と概要 <p>各論(各材料の特徴・適応症・手順)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンポジットレジン修復 ・セメント修復 ・鋳造修復 ・ラミネートベニア修復 ・その他の修復 <p>実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模型、相互 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	教科書に準じた講義、及び、材料・機材の紹介 模型及び相互実習		
評価方法	学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	天然歯に勝るものはないをいうことを念頭に置き、それを踏まえた上で、各歯科材料の利点・欠点を学んで欲しい。 そして、保存修復学は歯内療法学、歯周治療学との関連が深い為その相互関連を意識して学んでもらいたい。		

授業科目名 歯内療法学

担当講師	鶴田 満大		
実務経験	○	歯科医師 大学附属病院保存科にて勤務	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (30)時間
授業の 目標・概要	歯内療法処置の患者管理のために、歯科衛生士は歯髄炎、根尖性歯周炎の症状について理解し、患者に十分な説明ができるようにしておくことが大切である。また、術前の器械、薬剤の準備、診療にあたっては介補・補助に努める。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯内療法学の概要 2. 歯髄疾患の分類 3. 根尖性歯周組織疾患の分類 4. 歯科衛生士と歯内療法 5. 歯髄の保存療法 6. 歯髄の除去療法 7. 根管治療・根管充填 8. 外科的歯内療法 9. 歯内療法における偶発症 10. 歯内療法に使われる薬剤・器材 11. 実習 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編)歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	聴講形式		
評価方法	授業中の小テスト、態度なども学期試験の点数に加味する。		
履修上の 注意 アドバイス	疑問点などは積極的に質問して下さい。		

授業科目名 歯周治療学

担当講師	重松 正仁		
実務経験	○	三瀬診療所勤務時から現自院にて、歯周病治療を実践 船越歯周病学研修コース ベーシックコースおよびマスターコース受講	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	最近になってペリオドンタルメディスンと言われている歯周病と全身疾患との関連が明らかになってきた。歯周病学を学びながら、歯科衛生士という職業が、今後の日本の医療にいかに重要な役割を果たすことが可能かを理解していく。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周治療の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> I. 歯科衛生士と歯周治療 II. 歯周組織の構造と機能 III. 歯周疾患 2. 歯周治療の臨床と診療補助 <ol style="list-style-type: none"> I. 歯周治療の進め方 II. 歯周疾患の診査と診断 III. イニシャルプレパレーション IV. 口腔清掃指導 3. スケーリング・ルートプレーニング 4. 外科的歯周治療（歯周外科） 5. 咬合性外傷に対する治療法 6. メインテナンス 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版 長生きしたい人は歯周病を治しなさい		
参考文献	長生きしたい人は歯周病を治しなさい 天野敦雄（著）		
授業方法	教科書による講義、実際の症例を供覧、別途資料を配布		
評価方法	レポート、および期末テスト		
履修上の 注意 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に出すレポート課題は、必ず行うこと。 ・さらに、教科書にある指摘した重要事項は自分なりにまとめ、課題レポートに書き込んでおくこと。 ・わからないことがあったら、遠慮せず質問すること。 		

授業科目名 歯科補綴学

担当講師	平山 輝久		
実務経験	○	歯科医師として歯科医院を開業 長崎大学歯学部（歯科補綴学講座）に所属 大学院修了（博士取得）	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	歯科補綴学（基礎・臨床）の修得		
授業計画・ 授業内容	<p>基礎編： 1. 歯科補綴治療とは 2. 歯科補綴治療の基礎知識</p> <p>臨床編： 1. クラウン 2. ブリッジ 3. 義歯 4. インプラント 5. 補綴治療に用いられる器材とその管理 6. 補綴装置の補修、除去 7. 下顎運動および咬合の機能検査</p> <p>補綴歯科治療における歯科衛生士の役割</p>		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版 歯冠修復と欠損補綴の治療と診療補助 永末書店		
参考文献	講義の中で随時紹介する		
授業方法	講義形式		
評価方法	学期試験、小テスト、レポートの提出、出欠などから評価する		
履修上の 注意 アドバイス	授業には真摯に臨むこと		

授業科目名 矯正歯科学

担当講師	近藤 成智		
実務経験	○	歯科医師として業務を行っている	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (30)時間
授業の 目標・概要	<p>矯正治療は口腔機能の維持と改善、審美性の獲得を担っています。 この矯正治療を行う為には基本的な矯正歯科学の知識及び、臨床での具体的な診療行為を理解することが必要です。 矯正臨床に携わる歯科衛生士の基礎を獲得する事を目標とします。</p>		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 矯正歯科治療の概要 2. 成長発育 3. 正常咬合と不正咬合 4. 歯の移動様式 5. 矯正歯科診断 6. 矯正治療の実際 7. 実習 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版 医歯薬出版		
参考文献	プリント等を配付		
授業方法	プレゼンテーションによる講義、治療・診断実習等		
評価方法	学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	<p>歯科医学の中において、矯正歯科学は特種な分野です。 歯科衛生士として活躍する為の基礎を獲得する為に効率良く、 知識・技術を習得して下さい。今後の歯科衛生士人生に おいて、矯正歯科学が大いに役立つようしっかり学んでください。</p>		

授業科目名 口腔外科学

担当講師	岩本 脩平		
実務経験	○	大学病院での口腔外科診療	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	口腔外科は、口腔(こうくう:口のなか)、顎(がく:あご)、顔面ならびにその隣接組織に現れる先天性および後天性の疾患を扱う診療科である。この領域には歯が原因となるものから癌までさまざまな疾患が発生する。また、全身疾患との関わりが深い疾患も多い。そのため口腔外科学を口腔周囲の疾患だけとして学習するのではなく、全身疾患の中の1つの領域として学習していく。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先天異常と発育異常 2. 外傷 3. 口腔粘膜疾患 4. 炎症 5. 嚢胞 6. 腫瘍および腫瘍類似疾患 7. 顎関節疾患 8. 唾液腺疾患 9. 神経系疾患 10. 血液疾患 11. 治療および手術 12. 麻酔 13. 全身管理とモニタリング 14. 救命救急処置 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版 医歯薬出版		
参考文献	口腔外科学(医歯薬出版)		
授業方法	パワーポイントによる講義		
評価方法	学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	<p>基本的に教科書にそって授業を行います。</p> <p>必要に応じて参考文献にコピー等をおわたしするかと思います。</p> <p>各自の教科書、ノートによくメモをとって予習、復習をお願いします。</p>		

授業科目名 小児歯科学

担当講師	一瀬 暢宏		
実務経験	○	歯科医師として小児の歯科治療に携わっている。	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	小児歯科の内容における歯科衛生士業務は多岐にわたる。心身の発育から、予防処置のはじまり、各歯科診療(保存・歯内・補綴)、外科的なものから、咬合誘導と歯科全般における内容と関連している。これら統合的な手技の習得と、子供、母親(保護者)との対応など人とのかかわりを理解してもらうようにする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児歯科診療の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1)小児歯科医学概論 2)心身の発育 3)小児の生理的特徴 4)顔面頭蓋の発達 5)歯の発育とその異常 6)歯列・咬合の発育と異常 7)小児の歯科疾患 8)小児虐待 2. 小児歯科診療の実際と歯科衛生士の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1)小児期の特徴と歯科的問題点 2)小児歯科における患者との対応法 3)小児歯科における診療体系 4)障害児の歯科治療 5)う蝕予防 6)小児の口腔健康管理 7)歯科診療室と器材の管理 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	プロジェクターを使用し、PC(パワーポイント)による講義		
評価方法	授業中の小テスト、学期試験による評価		
履修上の 注意 アドバイス	小児歯列は、総論・各論にわかれ、基礎的な知識(生理・解剖学的なもの)から、保存、矯正、口腔外科等の幅広い知識が必要とされるので、各自、予習・復習が大切になります。		

授業科目名 障害者歯科疾患論

担当講師	西村 賢二		
実務経験	○	行政の歯科医師として障害者の歯科保健に携わる	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20) 時間
授業の 目標・概要	障害者の特質やそれに応じた歯科衛生業務に必要な知識・技術を習得する。また、障害者のライフサポートとしての歯科保健指導、口腔保健への支援、摂食嚥下指導などの実践につながる基本的知識と技術について習得する。		
授業計画・ 授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐賀県の障害者歯科の現状と対策 1. 障害者の現状 2. 障害者の歯科診療 3. 障害の種類と歯科的特徴 4. 障害者と薬剤 5. 障害者歯科における歯科衛生士の役割 6. 障害者の歯科診療と歯科診療補助 7. 障害者の口腔保健管理 8. 障害者の歯科保健指導の留意点と指導の実際 9. 障害者歯科医療・保健施設における歯科衛生士の役割 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 医歯薬出版		
参考文献	歯科衛生士講座 障害者歯科学 永末書店		
授業方法	パワーポイントによる講義		
評価方法	授業中の小テスト・プリント等の提出物、学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	障害者歯科は保健指導、診療補助という歯科衛生士業務のために、歯科医学だけではなく障害についての医学的知識が多く求められる。障害者歯科に携わる歯科衛生士は、診療補助のためにチェアサイドに立つだけでなく、障害や障害者について、社会福祉について十分に考えていただきたい。		

授業科目名 障害者歯科疾患論

担当講師	久保田 智彦		
実務経験	○	歯科医師として障害者歯科臨床に携わっている	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	障害者の特質やそれに応じた歯科衛生業務に必要な知識・技術を習得する。また、障害者のライフサポートとしての歯科保健指導、口腔保健への支援、摂食嚥下指導などの実践につながる基本的知識と技術について習得する。		
授業計画・ 授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐賀県の障害者歯科の現状と対策 1. 障害者の現状 2. 障害者の歯科診療 3. 障害の種類と歯科的特徴 4. 障害者と薬剤 5. 障害者歯科における歯科衛生士の役割 6. 障害者の歯科診療と歯科診療補助 7. 障害者の口腔保健管理 8. 障害者の歯科保健指導の留意点と指導の実際 9. 障害者歯科医療・保健施設における歯科衛生士の役割 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 医歯薬出版		
参考文献	歯科衛生士講座 障害者歯科学 永末書店		
授業方法	パワーポイントによる講義		
評価方法	授業中の小テスト・プリント等の提出物、学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	障害者歯科は保健指導、診療補助という歯科衛生士業務のために、歯科医学だけではなく障害についての医学的知識が多く求められる。障害者歯科に携わる歯科衛生士は、診療補助のためにチェアサイドに立つだけでなく、障害や障害者について、社会福祉について十分に考えていただきたい。		

授業科目名 高齢者歯科疾患論

担当講師	藤田 寛		
実務経験	○	大学病院口腔外科勤務 歯科医院を開院し訪問歯科診療に携わる 地域ケア会議介護認定審査会委員	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	高齢化社会が進んでいる中、歯科診療においても高齢者に対応する割合は増加の一途である。そこでこの授業を通して高齢者特有の生理や口腔保健、社会制度の基礎について理解することを目標とする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年者の現状 2. ライフサイクルと老年者歯科 3. 全身疾患と歯科治療について 4. 口腔の老化と歯科治療の関連性 5. 老年者歯科治療の気配りと実際 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	パワーポイントによる講義・プリント		
評価方法	授業中の小テスト、学期試験、授業態度		
履修上の 注意 アドバイス	高齢者歯科で扱う内容は多領域にわたるので、十分整理して理解するようにして下さい。		

授業科目名 高齢者歯科疾患論

担当講師	緒方 理人		
実務経験	○	歯科医師として診療業務を行っている	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20) 時間
授業の 目標・概要	<p>日本の高齢者人口の割合は約3割で世界最高の高齢化社会となっており、この分野での歯科衛生士の役割は年々重要になってきております。</p> <p>この授業は高齢者歯科の中でも特に口腔ケア、摂食嚥下にスポットを当てて授業をおこなっていきます。国家試験対策を重視した上で臨床でも対応できるよう取り組んでいきたいと思っております。</p>		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者や有病者に対する基礎知識の確認と高齢者歯科総論 2. 高齢者に対する口腔ケア 3. 摂食嚥下リハビリテーション 4. 高齢者に関わる医療と介護 5. 総括 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	小テスト・パワーポイントを用いた講義・質疑応答		
評価方法	授業中の小テスト、学期試験、講義・質疑応答に対する取り組み		
履修上の 注意 アドバイス	授業の中で学期試験や国家試験にも出題される内容が入ってきます。試験対策だけでなく臨床でも役立つよう授業をしたいと考えているので頑張ってください。		

授業科目名 歯科口腔放射線論

担当講師	福島 真司		
実務経験	○	歯科医師として業務を行っている。	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (24) 時間
授業の 目標・概要	放射線の基礎知識を習得する 歯科におけるエックス線検査について、知識、技術を習得する		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医療と放射線 2. 放射線の特徴 3. エックス線画像の形成 4. 口内法・口外法エックス線撮影 5. 口内法エックス線撮影の実際 6. パノラマエックス線撮影 7. エックス線写真の正常解剖および異常像 8. その他の画像検査 9. 放射線の人体への影響と防護 10. 放射線治療 11. 実習 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義・実習		
評価方法	学期試験、小テスト		
履修上の 注意 アドバイス	疑問があれば抱え込まずに、随時質問して解決してください。		

授業科目名 歯科予防処置

担当講師	古賀 さとり・下川 寧々		
実務経験	○	大学病院・総合病院及び歯科医院にて歯科衛生士として勤務	
履修時期	第 1,2,3 学年	単位数 (総時間数)	8 単位 (280) 時間
授業の 目標・概要	<p>歯科衛生士業務の根幹であり、「予防の時代」と叫ばれて久しい今日の歯科界において大変重要な、病因論に基づいた予防策を立案し、介入するための歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。特に不可欠である手技においては対象が「生きているヒト」であることを常に念頭におき、より確実なものとする。</p>		
授業計画・ 授業内容	<p>歯科予防処置論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科予防処置総論 2. 口腔内組織について 3. 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理 4. 歯科予防処置の基礎実習 5. 相互実習(臨床予備実習) 6. 歯科予防処置論におけるまとめ <p>う蝕予防処置</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. う蝕の基礎知識 2. う蝕予防における計画立案 3. う蝕予防における歯科衛生介入 <p>歯周病予防処置</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病の分類と原因 2. ペリオドンタルメディシン (歯周医学) 3. 歯周病予防・治療における歯科衛生介入 4. SPT とメンテナンスにおける歯科衛生介入 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論、歯周病学、小児歯科学、保健生態学、口腔解剖学、微生物学 医歯薬出版		
参考文献	加藤久子(著) スケーリングの基礎力アップ 「DH トレーニングドリル」 医歯薬出版 等		
授業方法	教本を基礎としたパワーポイント等による講義、プリントへの書き込み、机上、マネキン、相互での様々な実習など。		
評価方法	実技試験、授業中の小テスト、プリント等の提出物、実習時の態度、服装検査なども学期試験の点数に加味する。		
履修上の 注意 アドバイス	歯科予防処置は歯科衛生士のもっとも基礎となる教科であるため、復習を怠らないことが重要です。授業は真摯に取り組み、解らないことは随時質問して、確実に身に付けて下さい。また、様々な実習を行いますので服装・準備品等に各自気を付けて下さい。		

授業科目名 歯科保健指導

担当講師	木崎 寿美江・岸川 瑞紀		
実務経験	○	歯科衛生士として歯科医院勤務	
履修時期	第 1,2,3 学年	単位数 (総時間数)	6 単位 (210) 時間
授業の 目標・概要	<p>歯科保健指導および歯科衛生教育における知識・技法を習得する。さらに、様々な対象者の特徴を把握し、あらゆる場面で十分に対応し、助言・援助できる能力、考える力を養う。</p>		
授業計画・ 授業内容	<p>歯科保健指導とは 歯科保健指導の基礎知識 歯科保健行動実施のための基礎知識 分析のためのデータ (指数) 口腔清掃法 ライフステージ別歯科衛生活動 情報収集と情報処理 地域歯科保健活動 臨地実習 (幼稚園・小学校) 口腔機能管理に関わる指導 食生活指導 喫煙者に対する指導 歯科衛生過程の進め方 (演習含む)</p>		
教科書	<p>全国歯科衛生士教育協議会 (編) 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版</p>		
参考文献	<p>適宜資料プリント配布</p>		
授業方法	<p>講義・実習を中心とするが、グループワークによる話し合い、歯科保健指導に必要な媒体作成などを行う。</p>		
評価方法	<p>学期試験、実技試験、受講態度、作成物等を総合して評価する。</p>		
履修上の 注意 アドバイス	<p>歯科衛生士の業務として大切な科目です。また、歯科保健指導の講義で学んだことだけでなく、他の科目で習得した幅広い知識を必要とします。真面目に取り組み、授業内容の予習復習を行い講義に臨むよう心がけましょう。</p>		

授業科目名 栄養指導

担当講師	山崎 京子		
実務経験	○	大学・短大 病院外来食事指導 特定健診指導 行政における栄養指導	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (40) 時間
授業の 目標・概要	<p>栄養学は健康に生きていくうえでの生命維持に最も深いかかわりを持っている。栄養素の消化、吸収、代謝、及びその調節を中心に学ぶ教科である。食生活上の改善を必要とする対象者に対して施す具体的な指導方法を熟知し、それを実践することにある。</p>		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養の基礎知識――五大栄養素、日本人の食事摂取基準について 2. 食生活と食品――食生活の概要、食品のう蝕誘発性について 3. 栄養指導法――歯科臨床の場における栄養指導の必要性について 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	今日の食生活と疾患について(ビデオ) 講義、グループ別での栄養指導		
評価方法	平常時の出欠、学習態度、レポート及び学期試験の総合評価		
履修上の 注意 アドバイス	私語に注意すること		

授業科目名 歯科診療補助

担当講師	井手万里子・糟谷 純子・村石 美鈴		
実務経験	○	歯科衛生士として歯科医院勤務	
履修時期	第 1,2,3 学年	単位数 (総時間数)	9 単位 (315) 時間
授業の 目標・概要	<p>歯科診療補助は、歯科医院で行われるさまざまな処置に対して適切な補助業務をしていく必要がある。その為には、各歯科治療ごとの共同動作、器材の取り扱いに習熟することが必須である。</p>		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科診療補助論 2. 滅菌、消毒 3. 器械・材料の取り扱い 4. 歯科治療時の共同動作 5. 受付対応事務 6. 業務記録 		
教科書	<p>全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論、歯科機器、歯科材料、感染予防対策テキスト 滅菌・消毒・洗浄、デンタルスタッフのクリニカルマナー～歯科医院における受付・患者対応と事務～ 医歯薬出版</p>		
参考文献	適宜、資料プリント配布		
授業方法	講義、パワーポイント使用、プリント、小テスト、ロールプレイング、実習		
評価方法	学期試験、実技試験、小テスト、出席状態、授業態度		
履修上の 注意 アドバイス	<p>歯科診療補助は、臨床系の科目に付随して行われる広範囲な業務であるため、関連付けて習得することが大切です。 歯科医師と患者の間に立ち、歯科診療がスムーズに流れていくよう、知識、技術共に確実に身に付けてください。</p>		

授業科目名 臨床検査

担当講師	佐賀大学医学部検査部		
実務経験	○	生化学検査をはじめとする検体検査を中心に臨床検査全般に従事	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (20) 時間
授業の 目標・概要	患者の全身状態を知るためには、豊富な医学知識が必要である。現代医療において臨床検査は不可欠であるとともにテクノロジーや分子生物学の発展により新しい検査が増加している。疾患を理解するには、臨床検査の意義・検査値の解釈についての理解が重要である。臨床検査では歯科治療の現場で活かすことができるための知識を学ぶ。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査の概要と必要性 2. 生理(生体)検査 3. 血液検査と採血法 4. 貧血の検査・出血性素因の検査 5. 輸血検査 6. 尿検査 7. 肝機能検査・糖尿病の検査 8. 感染症の検査 9. 口腔領域の臨床検査 10. 病理検査 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会 (編) 歯科衛生学シリーズ 臨床検査 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義、スライド		
評価方法	学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を基に予習し、講義後の復習と理解に努める。 ・疑問点は随時に積極的な質問を希望する。 		

授業科目名 救急蘇生法

担当講師	中村 智彰		
実務経験	○	診療所にて歯科医師の業務を行っている 佐賀県歯科医師会開催の BLS 講習会を担当していた	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (16)時間
授業の 目標・概要	いざ緊急の事態に遭遇した場合、適切な手当を実施するには、日頃から手当に関する知識と技術を学び、身に付けておくことが不可欠であり、また1人でも多くの方が手当をできるようにしておくことが大切です。 医療従事者の一員として、講義、実習を通し、どんな場面においても自信を持って救急蘇生法が安全に行えるよう、知識と技術を修得して欲しいと思っています。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心肺蘇生法 2. AEDの使用法 3. 窒息の解除 4. 心臓発作、脳卒中、溺水、アナフィラキシーなどの致死的な緊急事態 		
教科書	BLSヘルスケアプロバイダー受講者マニュアル AHA ガイドライン2020 準拠 (株)シナジー		
参考文献			
授業方法	講義・実習		
評価方法	学期試験、聴講・実習態度		
履修上の 注意 アドバイス	救急蘇生法の授業は誰もが事故を防止し、緊急時に必要な救助や手当ができるように、正しい救急蘇生法の知識と技術の習得を目的としています。生命に係わる処置であることを常に念頭に置き真剣な姿勢で授業に臨み、実際の現場に立ち会ったときには、自信を持って救急蘇生法ができるようになって下さい。		

授業科目名 社会保険

担当講師	塚本 浩樹		
実務経験			
履修時期	第2学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (18)時間
授業の 目標・概要	社会保障制度及びその中心である医療保険制度について、意義、制度の概要、目的等について知識の習得を目標とする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保険制度全般について 2. 医療保険制度について 3. その他の関連項目 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	スライド(パワーポイント)を用いた講義		
評価方法	学期試験を中心とする		
履修上の 注意 アドバイス	歯科衛生士として、また医療人として必要な社会保障制度のしくみを理解することを主旨とします。		

授業科目名 医療保険事務

担当講師	今村 恭子		
実務経験	○	講師実務経験：医療事務関連企業勤務、医療事務、調剤事務、登録販売者	
履修時期	第3学年前期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	歯科診療の保険請求事務の基礎を学び、正確なレセプトを請求することの重要性を習得する。		
授業計画・ 授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ①医療保険制度の概要・窓口業務 ②歯科診療報酬点数表 <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとの算定学習 ・治療の流れと症例による点数算定 ③明細書作成と算定 		
教科書	医療保険事務（医科・歯科共通） 歯科テキスト3 [ニチイ学館]		
参考文献	歯科診療報酬点数表（社会保険研究所）		
授業方法	聴講形式		
評価方法	学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	診療報酬明細書の重要性を理解し、その知識を活かせるようにすること。		

授業科目名 歯科材料学

担当講師	村石 美鈴		
実務経験	○	歯科衛生士として歯科医院勤務	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	さまざまな歯科材料を取り扱う上で求められる知識を身につけ、あわせてその性質・用途・操作方法について学び、標準的な使用法を習得することを目的とする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.実習時における諸注意 2.模型材料・石こう 3.アルジネート印象材 4.寒天印象材 5.ゴム質印象材 6.仮封材 7.その他の印象材・ワックス 8.スタディモデル作製 9.合着材・接着材 10.コンポジットレジン 11.ガラスアイオノマーセメント 12.アマルガム・マトリックスバンド 13.歯科材料と歯科衛生士 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会（編）歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論、歯科機器、歯科材料 医歯薬出版		
参考文献	適宜 資料プリント配布		
授業方法	講義、机上・マネキン・相互での実習、パワーポイント使用		
評価方法	学期試験、宿題プリントの提出状況、実習時における服装についての総合評価、小テスト		
履修上の 注意 アドバイス	歯科材料学は歯科衛生士になるうえで理解しておかなければならない重要な科目です。日々行われる診療において多くの材料が使用され、使用方法や保管方法も様々ですので、しっかり復習して確実に身につけられるようにして下さい。		

授業科目名 看護概論

担当講師	浦 弘得		
実務経験	○	看護師 医療・介護・福祉連携コーディネーター	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	<p>歯科衛生士が医療チームの一員として病院や診療所、地域において活躍できるために、看護概論を学ぶ。対象者(患者、利用者)を身体的、心理的、社会的な存在として、理解する事に基本的視点を置き、必要な看護の基礎知識を習得する。</p>		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士の活動の場と役割 2. 看護の概念(協働する看護の理解と多職種連携) 3. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 <ol style="list-style-type: none"> ①バイタルサインについて ②バイタルサイン測定の実際(演習) ③患者とのコミュニケーション ④患者の安全と安楽 ⑤摂食とその他の看護技術 4. 歯科衛生士に必要な看護実務 <ol style="list-style-type: none"> ①観察と記録 ②外来・入院患者の看護 ③口腔ケア ④感染対策・医療安全対策 5. 地域医療活動における歯科衛生士の役割 <ol style="list-style-type: none"> ①保健・医療・福祉チームとの連携 ②在宅医療における歯科衛生士の役割 		
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(編) 歯科衛生士のための看護学大意 第4版 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義・演習・質問ワーク		
評価方法	出席状況、授業中の態度、学期試験		
履修上の 注意 アドバイス	看護は患者個々の状態に応じた包括的ケアを医療チームの一員として実施しています。その為、看護概念や方法を学ぶ事は歯科衛生士にとって有用と考えます。看護について学んでください。		

授業科目名 総合講義

担当講師	坂本 美保、木村敬次リチャード、浅川 龍憲、古谷 幸子、糟谷 純子		
実務経験			
履修時期	第3学年後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	歯科衛生士として就業するにあたり、今後必要不可欠な知識を修得する。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.Windows PowerPoint 習得 2.障害者歯科との関わり方 3.ホワイトニングについて 		
教科書			
参考文献			
授業方法	講義、実習形式		
評価方法	出席状況で評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	歯科衛生士業務を行うにあたり重要な科目となるので、遅刻欠席のないように注意すること。また、授業は真摯な態度で臨むこと。		

授業科目名 必修クラブ(茶道)

担当講師	倉成 登志子		
実務経験	○	茶道裏千家 正教授	
履修時期	第1学年前期・後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	和敬清寂		
授業計画・ 授業内容	茶室での心得 亭主と客の和合		
教科書			
参考文献	今日庵よりの茶道教科		
授業方法	実習形式 動学術		
評価方法	和敬清寂		
履修上の 注意 アドバイス	和敬清寂を目標として、一步一步学んでほしい。		

授業科目名 必修クラブ(書道)

担当講師	太田 直彦		
実務経験	○	佐賀県書道教育連盟役員 書道教室主宰	
履修時期	第1学年前期・後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	書の基本から学び、自分の字(手本の真似でなく)での作品を目指す ※上手くはないが、書道に関心があるという人に勧める		
授業計画・ 授業内容	1.2 習字(書写)から書道へ 3.4 楷書 5.6 行書 7.8 篆刻(簡単なゴム印の制作) 9.10.11 作品制作 12.13.14 古典の書 15 発表会(他クラブと合同) ※上記は状況により変更することがある		
教科書	なし(都度講師が準備する)		
参考文献	適宜使用		
授業方法	手本を参考に先ず書いてみる。添削指導し毎回清書を提出してもらう		
評価方法	毎回提出する課題及び受講態度等総合的に判断して評価する		
履修上の 注意 アドバイス	○準備するもの 書道用具(大筆、小筆、文鎮、下敷き、墨液、半紙、新聞紙等) ※特に筆は使用可能か事前に確認しておくこと		

授業科目名 必修クラブ(華道)

担当講師	米倉 弥生		
実務経験	○	華道教室 華道教授門標取得 総華督 免許状取得	
履修時期	第1学年前期・後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30)時間
授業の 目標・概要	華道をとおして、ただ花を活けるだけではなく、授業前後の挨拶や後片付けなど 伝統文化を学ぶ上での基本的な態度に重点をおき、楽しく自由な発想で花を活ける。		
授業計画・ 授業内容	授業内は玄関や居間などに飾る「自然的自由花」を中心に進めていく。毎回主材や 花材が違ってくるが、初めのうちは全員が同じような形で活け、回をおっていく につれ、自由な発想で活けさせる。そして最後には自分で「自然的自由花」を活ける 事ができるようになるまで指導する。生花三種生を学ぶ。個人別に良い点、悪い 点などを指摘し、少しずつポイントをつかませる。授業前後の挨拶や片付けなど も徹底させる。		
教科書			
参考文献	はじめのいけばな学校華道		
授業方法	実習形式		
評価方法	出席状態、受講中の態度や熱意、ノートの整理やレポート内容で評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	楽しくおおらかな気持ちで花は活けるが、授業のなかで華道の歴史なども話すの で、節度ある態度で受講するように指導している。華道を通して日本の心を理解 してほしい。		

授業科目名 必修クラブ(ピアノ)

担当講師	松尾 尚子		
実務経験	○	ピアノ独奏及び声楽等の伴奏を中心とした演奏活動、ピアノ個人指導 アートミュージックピアノ講師 PIARA ピアノコンクール審査員	
履修時期	第1学年前期・後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	歯科衛生士として、専門の知識や技術を習得するのみならず、幅広く教養を身につける。ピアノ演奏を通して開かれた柔軟な心と豊かな感性を養って欲しい。		
授業計画・ 授業内容	それぞれの学生に適した曲を選び、その読譜と演奏表現の楽しさを学ぶ。 最終授業はコンサートを行う。		
教科書			
参考文献			
授業方法	実習形式 進度に応じた個人レッスンをを行う。 待ち時間は各自に必要なとされるワークを用意し自習する。		
評価方法	出席状態、意欲を評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	コンサートでの演奏を目標として、毎回のレッスンが楽しく有意義なものとなる 様に熱意をもって練習して下さい。		

授業科目名 必修クラブ(ハンドベル)

担当講師	久米 詔子		
実務経験	○	元佐賀女子高等学校ハンドベルリンガーズ音楽監督 福岡女子短期大学子ども学科非常勤講師	
履修時期	第1学年前期・後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	ミュージックベル(ハンドベル)は誰にでも演奏できる楽器です。ただ、一人で演奏するのではなく、10人前後のグループで一人2～3本のベルを担当し協力し合 って音楽を作ります。楽譜が読めなくても素敵な仲間と1つの音楽を作り上げる 楽しさを味わうことができるでしょう。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演奏を始める前に <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルセッティング ・楽器の取り扱い ・基本姿勢 ・ベル番号と音域 2. 基本練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ベル振り 3. 楽典 <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を読むための簡単な理論 4. 楽曲演奏 きらきら星、虹の彼方に、大きな古時計、クリスマスソング、他 5. 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> ・イングリッシュハンドベルの演奏 6. 発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・演奏会のマナー ・ベル交換 		
教科書	配布楽譜		
参考文献			
授業方法	実習形式		
評価方法	出席状態、受講中の態度や熱意、提出物等を評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	グループでの実習となるため、協調性が必要となります。また、楽器保護のため手 袋(約150円)と楽譜ファイル(約150円)を購入してもらいます。 一人ずつ担当するベルが違うため楽譜と筆記用具、手袋を必ず持参して下さい。		

授業科目名 話 法

担当講師	松尾 京子		
実務経験	○	企業でのビジネスコミュニケーション研修 コミュニケーションレッスン（個人向け、コンテスト参加者向け） セラピスト&パーソナルコーチ	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20) 時間
授業の 目標・概要	人間関係は「会話（コミュニケーション）」で成り立っている。 社会人・職業人として必要な、win-win で心地良い人間関係になれる会話力を、脳 の特性も交えながら学び、身につける。		
授業計画・ 授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの本質 ・ミスコミュニケーションが起こる原因と対策 ・信頼関係の築き方 ・相手に伝わりやすい言葉の使い方 ・プレゼンテーションの技術 ・敬語の使い方 		
教科書	プリント配布		
参考文献			
授業方法	聴講とロールプレイング中心		
評価方法	講義参加状況と終了課題		
履修上の 注意 アドバイス	より良いコミュニケーションのためには知識も必要ですが、それ以上に考えなく ても自然にできるようになることが大切です。ロールプレイングには積極的に参 加し、そして学んだ事を少しずつでも日常の中で使っていきましょう。		

授業科目名 接 遇

担当講師	立花 美絵		
実務経験	○	他校で講師として勤務	
履修時期	第1学年後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	「人間力」を高めながら、社会人として求められる社会人基礎力となるマナーや言葉づかい・コミュニケーション力を学び、「愛される人」を目指します。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人と学生の違いと社会人基礎力 2. コミュニケーション力をつける 3. 報連相の重要性 4. 接遇・ビジネスマナーの基礎① 5. 接遇・ビジネスマナーの基礎② 6. 愛される人を目指す 7. 言葉づかいと伝え方 8. 敬語の使い方 9. 電話対応 10. クレーム対応 11. 来客対応 12. 自身の考えを伝える力をつける (ディスカッション) 13. チームワーク力を学ぶ 14. コンプライアンスと個人情報の取り扱い 15. 総合まとめ・テスト 		
教科書	安心と自信を手に入れる！ビジネスマナー講座 田巻華月 (著) 同文館出版 講師作成の資料		
参考文献	「ビジネスマナーの基本」 その他		
授業方法	テキストを使用した講義と対話・ディスカッション・グループワーク		
評価方法	出席率・授業態度・学期試験などで総合評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・「インプット」「アウトプット」を通じて自身の考えを伝える事を目指します。 ・思いやりのある人間力を高め、様々な人を受け入れられるようにします。 ・「愛される人」を目指し、どんな人間関係も自身の考え方で良好にすることが出来る事を目指します。 ・ビジネスマナー・接遇の学びを通じて社会人の基礎となる人間力を高め、社会に出てプロ意識を持って仕事に取り組むことが出来る力を育みます。 		

授業科目名 隣接医学

担当講師	古川 幸介		
実務経験	○	歯科医師として診療に携わる	
履修時期	第2学年前期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	口腔の健康状態は全身的な健康状態と密接な関係があることがいわれており、全身疾患の知識がないと歯科治療を行うことができないといっても過言ではない。授業を通して、全身の基本的知識を修得し、実践に活かせるようにする。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 2. 全身合併症 3. 循環器 4. 呼吸器 5. 消化器 6. 脳神経 7. 代謝 8. がん 9. 救急 10. その他全身疾患 		
教科書	橋本賢二/編 デンタルビジョン別冊/歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック 医歯薬出版		
参考文献			
授業方法	講義 パワーポイントと配布資料		
評価方法	期末テストと小テスト		
履修上の 注意 アドバイス	歯科診療を行なう上で、全身疾患における最低限の知識を身につけ、臨床においてもすぐに対応できる実践力をつけましょう。		

授業科目名 情報処理概論・実習

担当講師	坂本 美保		
実務経験	○	職業訓練 求職者支援訓練 PC 講師	
履修時期	第2学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (20) 時間
授業の 目標・概要	パーソナルコンピュータを利用するための基礎知識、Windowsでの主要アプリケーション(Word・Excel)の基本操作を学ぶ。さらに、実践分野での適応を目指す。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Windowsの基本操作 2. Word2019の基礎 <ol style="list-style-type: none"> (1)案内状作成 (2)オブジェクトの利用 (3)罫線と表 3. Excel2019の基礎 <ol style="list-style-type: none"> (1)表作成、編集 (2)数式 (3)グラフ作成 4. 各種実践練習(実社会で最低限必要なスキルを身につける為) 		
教科書	『よくわかる Word2019&Excel2019&PowerPoint2019』 FOM 出版		
参考文献			
授業方法	実習形式		
評価方法	課題提出、出席状態、授業態度による総合評価		
履修上の 注意 アドバイス	PC近くでの飲食は避けてください。機器の使用には十分注意し、また設定などを変更しないで下さい。		

授業科目名 介護技術概論

担当講師	山口 直美		
実務経験	○	居宅介護や施設介護に携わってきた	
履修時期	第2学年後期	単位数 (総時間数)	2単位 (30) 時間
授業の 目標・概要	これからの歯科衛生士に求められる福祉的ニーズとその背景を知り、時代に即応できる力を身につける。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護のための基礎知識 2. 介護に関する制度とサービス 3. 高齢者歯科診療のためのコミュニケーションのポイント 4. 高齢者の病気と障がいの知識 5. 高齢者・障がい者の生活とその家族の理解 6. 認知症に関する基礎知識 7. 要介護者高齢者への対応を充実させるための技術と環境整備 		
教科書	高齢者の歯科診療 はじめの一步 「介護・介助の基本スキル」 内藤徹 著他 医歯薬出版		
参考文献	適宜紹介する		
授業方法	講義、演習		
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況、授業中の態度を基に評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	歯科診療を必要としている要介護高齢者や障害者は年々増加している。この講義により、このような要介護者に対する理解を深め、適切な対応ができるようになってほしい。		

授業科目名 介護技術演習

担当講師	山口 直美		
実務経験	○	介護福祉士として、要介護高齢者の生活支援に携わってきた。	
履修時期	第2学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	介護技術概論で習得した知識を基に実際の介護技術の提供方法を学ぶ。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 寝具の整え方 2. 寝床上での体位変換と安楽な姿勢の整え方 3. 起居の介護の方法 4. 車いすでの移動・移乗介助の方法 5. 障がいのある方の歩行介助の方法 6. 衣服の着脱介助の方法 7. 排泄介助の方法 8. 福祉用具に関する知識とその使用方法 		
教科書	高齢者の歯科診療 はじめの一步 「介護・介助の基本スキル」 内藤徹 著他 医歯薬出版		
参考文献	適宜紹介する		
授業方法	講義、実技演習		
評価方法	筆記試験、実技試験、出席状況、授業中の態度等により評価する。		
履修上の 注意 アドバイス	実技演習では全員が介護者役と要介護者役を体験する。そのため、ジャージ等の動きやすい服装、衛生面に配慮した格好で授業に望むこと。		

授業科目名 摂食嚥下・口腔機能訓練法

担当講師	服部 信一		
実務経験	○	歯科医師 往診（病院・施設・在宅）を行っている	
履修時期	第2学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	歯科衛生士として超高齢化社会に対応できるようになるため、摂食・嚥下障害について理解を深め、各種嚥下訓練法、口腔ケアについての技術を習得する。		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下のメカニズム 2. 摂食嚥下障害の観察と評価 3. ナースが行う摂食嚥下訓練の実際 4. アプローチの実際 5. 口腔ケア 		
教科書	日本歯科衛生士会（監） 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版 医歯薬出版		
参考文献	摂食嚥下リハビリテーション 中山書店出版		
授業方法	講義形式・実習		
評価方法	学期試験、出席状況、授業中の態度		
履修上の 注意 アドバイス	歯科衛生士業務を行うにあたり、必要不可欠な内容である。 授業には真摯に臨み、私語は慎むこと。		

授業科目名 国語表現法及び読解

担当講師	清水 耕史		
実務経験			
履修時期	第2学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (20)時間
授業の 目標・概要	<p>歯科医療は人間を相手とします。ですから、そこでは何よりも言葉によるコミュニケーションが求められます。特に痛みや不安を抱く患者の気持ちを正しく汲み取り、支えるためには、言葉のやりとりを通して他の人と理解する力や、自分の考えをきちんとまとめて伝える能力が必要となります。また、様々な書類等を扱うことも多く、文字力・読解力・表現力などを身につけ、場面に応じた適切な対応ができなければなりません。こうした日常的な言語能力や技術を修得し、多様な臨床現場で確実に活かすことを授業目標とします。</p>		
授業計画・ 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「国語表現法及び読解」の学習に必須なものとは 2. 文章読解の方法（文字力・語彙力・読解力の育成） 3. 文章表現の方法（日常的な文章能力・技術の育成） 4. まとめ <p>※読解力や表現力を身につける上で最も重要なのは、単なる技術の習得ではありません。それは日常における自己の生活意識の向上であり、生活そのものの質の向上です。そのため、人間生活の質の向上につながる問題意識を喚起するような内容（日頃何を考え何を大切なものとして生きているか、また人と人との関係の中ではどういう気遣いが必要か）なども、極力わかりやすく取り入れながら進める予定です。</p>		
教科書	解説及び演習等のプリント配布		
参考文献	各種文章読解・表現に関する一般書籍		
授業方法	講義及び演習		
評価方法	学期試験、出席状況、授業中の取り組み姿勢など		
履修上の 注意 アドバイス	<p>自分の目標や将来設計、身の回りの人間関係での経験など、自分の周辺をしっかりと見つめるようにしてください。また、新聞やテレビ・ラジオなどのニュースに気を配り、社会の状況にも関心を払ってほしいと思います。</p>		

授業科目名 コミュニケーション学

担当講師	村上 美由紀		
実務経験	○	医療機関にて業務（窓口・受付）	
履修時期	第2学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (20) 時間
授業の 目標・概 要	<p>様々な形でのコミュニケーションが可能な現代、「体験学習」を通して自分自身が「気づく」ことでしっかり自分と向き合う。</p> <p>そしてそのことにより、社会人としてのコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。</p>		
授業計 画・授業 内容	<p>「見て・聞（聴）いて・感じる」</p> <p>「ホスピタリティをみがく」</p> <p>「聴くことのたいせつさ」</p> <p>想像力・加工力・アドリブ力トレーニング</p> <p>高齢者とのコミュニケーション</p>		
教科書			
参考文献	<p>新グループワークトレーニング／日本レクリエーション協会 監修</p> <p>ホスピタリティをみがく本／ホスピタリティトレーニング研究会 監修</p> <p>いのちを慈しむヒューマンコミュニケーション授業／高塚人志 著</p>		
授業方法	ロールプレイ・講義形式		
評価方法	出席状況、授業姿勢・態度、レポート提出		
履修上の 注意 アドバイス	<p>意図的に学ぶことで様々なことを習得する。しっかりと感じとめ、人と向き合い、相手を感じ取ることができるような人となれるよう、充実した講義の時間にして欲しい。</p>		

授業科目名 ペン字

担当講師	太田 直彦		
実務経験	○	佐賀県書道教育連盟役員 書道教室主宰	
履修時期	第2学年後期	単位数 (総時間数)	1単位 (20) 時間
授業の 目標・概要	「読みやすい文字」が意識して書けるようになることを目指す (科目名は「ペン字」だが、筆ペンを使用する)		
授業計画・授 業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ひらがなの基本形 2. ひらがな① 3. ひらがな② 4. 漢字(地名・人名①) 5. 漢字(地名・人名②) 6. 祝儀袋他 7. はがき・封書 8. 簡単な文例 9. やさしい行書 10.まとめ ※上記は状況により変更することがある		
教科書	和田康子著 筆ペン字練習帳 新星出版社		
参考文献	適宜使用		
授業方法	テキスト及び講師が準備した資料をもとに演習、添削指導等		
評価方法	毎回提出する課題及び受講態度等総合的に判断して評価する		
履修上の 注意 アドバイス	準備するもの ・筆ペン(毛筆タイプのものに限る) ・書き方ノート(8マス)		